

# 貝花遺跡第3次発掘調査報告書

1999

財団法人 東大阪市文化財協会

## 本文目次

I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	1
III 調査の方法	2
IV 調査の成果	
A地区の調査	2
1 層序	2
2 遺構	3
3 遺物	6
B地区の調査	9
V まとめ	9

## 挿図目次

第1図 貝花遺跡周辺の遺跡分布図	3
第2図 第3次調査地点位置図	4
第3図 調査区北壁断面実測図	5
第4図 第5層上面遺構実測図(溝1~3)	6
第5図 出土遺物実測図	7
第6図 出土遺物実測図	8

## 図版目次

### 図版1 遺構

1 調査前風景(西より) 2 調査風景	16
---------------------	----

### 図版2 遺構

1 第4層土師器出土状況(南より) 2 第4層土師器出土状況(西より)	17
-------------------------------------	----

### 図版3 遺構

1 溝2完掘状況(北より) 2 溝1・2断面(東壁)	18
----------------------------	----

### 図版4 遺構

1 溝3完掘状況(南より) 2 溝3断面(北壁)	19
--------------------------	----

### 図版5 遺物

遺物	20
----	----

### 図版6 遺物

遺物	21
----	----

### 図版7 遺物

遺物	22
----	----

### 図版8 遺物

遺物	23
----	----

## 表目次

第1表 周辺の遺跡分布図	1
--------------	---

第2表 生駒山西麓部の古墳時代の集落変遷	10
----------------------	----

第3表 出土遺物観察表	11
-------------	----

# 貝花遺跡第3次発掘調査報告

## I 調査に至る経過

東大阪市の東部を占める生駒山西麓部一帯の開発は、これまで近畿日本鉄道東大阪線や第2阪奈有料自動車道路の建設など石切地区から瓢箪山周辺で行われてきたため、これらの開発に伴う発掘調査もこの地区を中心に進められてきた。

近年では、この地区に加え瓢箪山以南から八尾市との境界付近にかけての開発工事が急激に増加してきている。したがってこれまで発掘調査の少なかった東大阪市東南部に分布する五合田遺跡・段上遺跡・船山遺跡・貝花遺跡などでの調査が進展し、新たな調査成果を挙げている。

このような情勢の中で平成6年3月、株式会社スタッフは横小路町517付近で下水管埋設工事と道路敷設工事を計画した。工事予定地は、同遺跡第1・2次発掘調査地点の南側に接する位置にあたる。このため、東大阪市教育委員会文化財課では、第1・2次調査の調査結果に基づき工事に先だって発掘調査を実施する必要があるとの結論をだし、株式会社スタッフとの間で協議を重ねた結果、下水管理設部分のうち南寄り部分の23m<sup>2</sup>と道路敷設部分の36m<sup>2</sup>の合計59m<sup>2</sup>についての発掘調査を実施することになった。

発掘調査は株式会社スタッフからの委託を受けた財団法人東大阪市文化財協会が平成6年4月25日から5月19日まで現地での調査を実施した。

## II 位置と環境

貝花遺跡第3次調査地点は、昭和58年国土地理院発行の土地条件図、大阪東南部では生駒山地から西方へ流れ下る箕後川の北側に形成された段丘下位面上の標高約36mに位置している。

遺跡名	遺物		旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良・平安時代	鎌倉・室町時代
	土器	瓦						
市尻遺跡								
五合田遺跡								
段上遺跡								
純手遺跡								
船山遺跡								
馬場川遺跡								
大賀世古墳群								
岩滝山遺跡								
貝花遺跡								
西の口遺跡								

第1表 周辺の遺跡分布図

本遺跡の周辺には、縄文時代から室町時代にかけての多くの遺跡が分布している。これらの遺跡は、冒頭で記述したように現在までのところ十分な調査資料の蓄積があるわけではないが、これまでの調査成果を第1表に示しておく。

貝花遺跡の発掘調査は、本調査地点の北側に接する地点で平成5年度に2度実施されている(第1・2次調査)。2度の発掘調査では、中世の土器類、古墳時代後期の井戸1基と土器類・滑石裂子持勾玉、古墳時代前期の土器類を含む地層を検出している。

### III 調査の方法

第3次発掘調査では道路敷設部分をA地区、下水管理設部分をB地区と仮称することにした。

A地区は、調査区内に堆積する近・現代の土層を機械によって掘削した後、以下の層位を人力によって掘削を進め、各層の上面で遺構の検出に努めた。遺構を検出した場合は、図面作成と写真撮影を行なった。なお、図面の作成は、調査区周辺の2ヶ所に国家座標を移設し(A点  $X = -150170$ ,  $Y = -32320$ ・B点  $X = -150163$ ,  $Y = -32320$ )、これを基準に行なった。

B地区は、南北長約25m・東西幅0.9m・深さは管底部分までの現地表下2.5mまでを対象とした。B地区の調査はすべて機械によって掘削し、掘削土を仮置きしたうえで遺物を取り上げた。なお、B地区については、掘削中に調査区の壁面が崩壊したため図面や写真などの記録を作成できなかった。したがって、次項では主にA地区の調査成果を記載してゆく。

### IV 調査の成果

#### A地区の調査

A地区は、東西10m・南北約3mの範囲で調査を実施した。本調査区の北西隅部分は、第2次調査地点と重複している。以下では、調査の概要を層序・遺構・遺物にわけて記述してゆく。

#### 1 層序

A地区の現地表面は、T.P.+36.5m前後を測る。現地表面下に約1.2m堆積する近・現代の土層は機械によって除去し、以下の層位を人力によって掘削した。ここでは、調査区北壁でみられる土層について記載する。

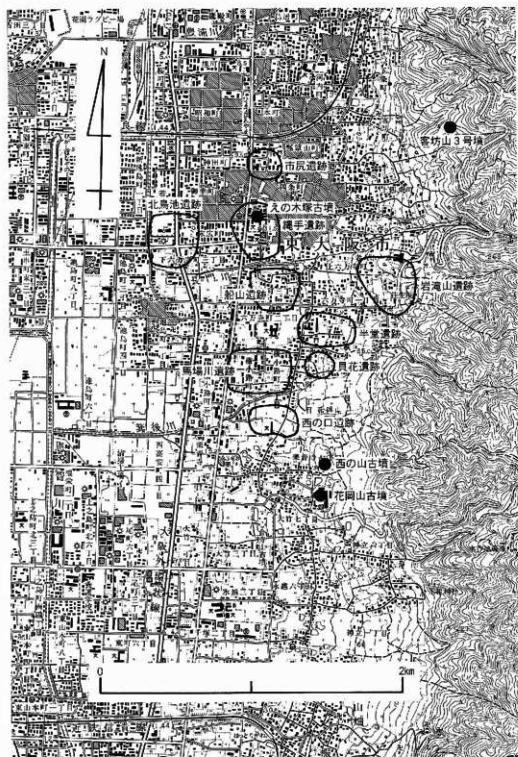
近・現代の盛土。1.2m～2.1m。

第1層 25Y6/3にぶい黄色極粗粒砂まじり細粒砂。層厚約8cm。

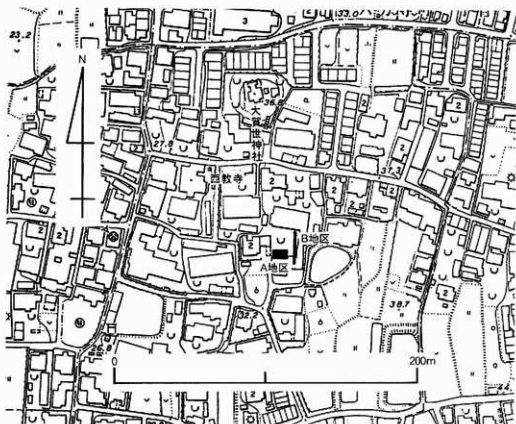
第2層 10YR6/2灰黄褐色極粗粒砂まじり極細粒砂～シルト。鎌倉時代の瓦器を含む。層厚約10cm。

第3層 10YR6/6明黄褐色極粗粒砂まじり極細粒砂～シルト。古墳時代後期の須恵器を含む。層厚15～30cm。

第4層 2.5Y3/1黒褐色細礫まじり極細粒砂～シルト(焼土・炭を含む)。古墳時代前期の土器を含む。層厚約20～30cm。



第1図 貝花遺跡周辺の遺跡分布図



第2図 第3次調査地点位置図

第5層 7.5GY5/1緑灰色細粒砂まじり細礫～極粗粒砂。土器を含まない。

第6層 7.5Y5/2灰オリーブ色シルトまじり細粒砂。土器を含まない。

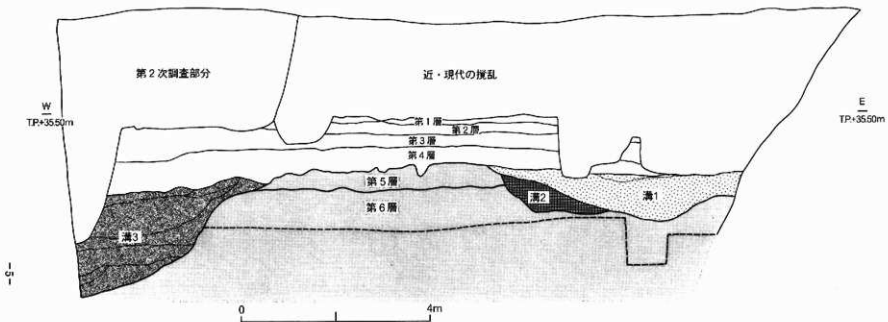
## 2 遺構

A地区からは、第5層上面から溝3条(溝1・溝2・溝3)を検出している。

溝1は、A地区の北東隅部分で確認しているもので、南東から北西方向にのび、検出長約2.4m・検出幅約1.3m・深さ0.45mを測る。溝の上部は、削平され近・現代の上層が堆積する。溝内には、下部に古墳時代前期初頭頃の土器を含む10Y4/1灰色極粗粒砂～粗粒砂層が約40cm、その上部に約10cmの5GY2/1オリーブ黒色極細粒砂～シルト層が堆積する。溝内の出土遺物や遺構の検出層位から溝1の埋没時期は、古墳時代前期初頭頃と推定できる。

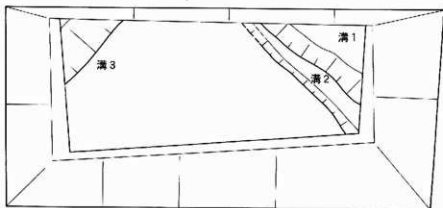
溝2は、調査区北東隅部分で検出したもので南東から北西方向にのびる。溝2の東側は、溝1と重複する。検出できた溝の規模は、全長約2.4m・幅約0.7m・深さ約0.36mである。溝内には、10GY4/1暗緑灰色細礫まじり極細粒砂層が堆積し、サヌカイト片1点が出土している。溝2の埋没時期は、検出層位や溝1との重複関係から古墳時代前期を上限とする時期といえる。

溝3は、調査区北西隅部分にある北東から南西方向にのびる溝である。検出できた溝は、長さ約1.5m・幅約0.75m・深さ約1.1mを測る。溝内には、上部から10YR3/2黒褐色極粗粒砂まじ



第3図 調査区北壁断面実測図

基準点 X=-150183  
B点 Y=-32320



X=-150170  
Y=-32320

基準点  
A点



第4図 第5層上面遺構実測図 (溝1~3)

り極細粒砂～シルト層約10cm、2.5Y3/1黒褐色中礫まじり細粒砂層約10cm、10G4/1暗緑灰色細礫まじり細粒砂層約35cm、10G4/1暗緑灰色粗粒砂まじりシルト層約10cm、10G5/1緑灰色細礫まじり細粒砂層約20cm、10GY4/1暗緑灰色極細礫～シルト層約10cm、2.5Y4/1黄灰色シルト層約25cmが堆積する。これらの堆積層のうち10GY4/1暗緑灰色極細礫～シルト層には、弥生時代後期の土器類を含んでいる。溝3の埋没時期は、溝内出土遺物や検出層位から弥生時代後期と推定できる。

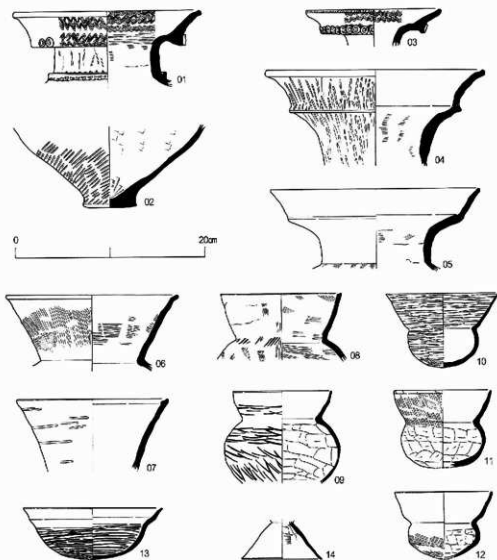
### 3 遺物

A地区からは、前述した遺構をはじめ、第2層より鎌倉時代の瓦器碗、第3層から古墳時代後期の須恵器環・土師器類などが出土しているのをはじめ、第4層から古墳時代前期の土師器を多量に検出している。以下では、まず遺構内出土遺物について記述した後、第2層～第4層出土遺物について記載する。なお、遺物の記述に先立ち、遺構および第4層出土の土師器の形態分類を示しておく。個々の遺物の特徴については、遺物観察表を参照していただきたい。

#### 壺

- 壺A 二重口縁を呈するもの。
- 壺B 口縁部が外上方にのびるもの。
- 壺C 口縁部が内彎気味にたちあがるもの。
- 壺D 口縁部が大きくひらく小型丸底壺。





第5図 出土遺物実測図

鉢

鉢A 口縁部が二段に屈曲して外上方にひろく。底部は丸底。

器台

器台A 壺Dと組み合わせになる小型の器台。

高坏

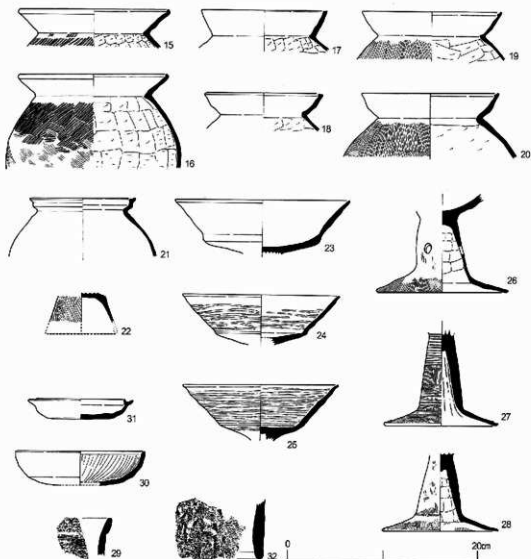
高坏A 坏底部と口縁部との境に段をもつもの。

高坏B 坏底部と口縁部との境界に稜を構成するもの。

甕

甕A 口縁部が外反し端部を上方に短くつまみ上げるもの。

甕B 口縁部が内彎気味に立ち上がり、端部に平坦な面を構成するもの。



第6図 出土遺物実測図

壺C 口縁部が内彎気味に立ち上がり、端部を内側に肥厚させるもの。

壺D 口縁部がS字形に屈曲するもの。

各遺構から出土している遺物（第5図1・2）は極めて少量にとどまる。

これらの遺物から遺構の埋没時期を推定すると、溝1からは口縁部内外面に櫛描波状文を巡し口縁部と体部の境界に刻み目をもつ突帯を施した壺Aが出土している（1）。このような加飾する壺Aは、庄内式期の壺Aの特徴の1つといえる。溝3からは、体部下半に粗い平行タタキメを残し、突出する底部をもつ壺を検出している（2）。このことは、弥生時代後期末の特徴を残すものと考えられることができる。

第4層出土の土師器には、壺A・B・C・D、鉢A、器台A、甑A・B・C・D、高坏A・Bなど

がある。

壺A(3~4)には、口縁部内外面に櫛描波状文や、口縁部外面に刺突文を加えた円形浮文を施したもの(3)や口縁部が(1)に比べ強く外反するもの(4・5)がある。壺B(6・7)には、口縁端部を丸くおさめ内外面をハケメ調整するもの(6)と、口縁端部に内傾する面をもち、外面をヘラミガキ調整するもの(7)がある。壺D(10~12)は、口径が体部最大径よりも大きく、外面をヘラミガキ調整するもの(10)、体部をヘラケズリ調整するもの(11)、ハケメ調整するもの(12)がある。

壺A(15・16)は、体部外面を右上がりの細筋の平行タタキメをもち、体部内面を横方向にヘラケズリ調整する。壺B(17・18)は、外面をナデ調整、内面をヘラケズリ調整で仕上げている。壺C(19・20)は、外面を縦方向のハケメ調整、内面に横方向のヘラケズリ調整を施す。壺D(21・22)は、口縁部が外反気味にたちあがり、屈曲部が鋭い稜をなし、底部に低い脚台をもつ。(22)

高坏A(23)は、坏底部が浅く広い。高坏B(24・25)は、狭い。坏底部から口縁部にたちあがり坏部外面全体に横方向のヘラミガキ調整を加える。高坏脚部は、細長い柱状部から鋭く屈折して裾部につながる。外面はハケメ調整後、横方向のヘラミガキ調整を加えるもの(27)もある。内面は、柱状部にシボリメを残すもの(27)と横方向のヘラケズリ調整を施すもの(26・28)がある。

以上のような形態・製作手法的特徴から第4層出土の土師器は庄内式から布留式の古相を示すものと考えることができる。これまでに報告されている同期の資料には、本調査地点の西約500mに位置する馬場川遺跡T地点の出土遺物がある。

## B地区の調査

B地区は、前述したような調査方法のため遺構を検出できなかった。排土内からは、中世の瓦器・陶磁器、奈良~平安時代の土師器・須恵器・製塩土器、古墳時代後期の須恵器・埴輪、古墳時代前期の土師器などが出土している。これらの出土層位は、明確ではない。

## V まとめ

以上のように貝花遺跡第3次発掘調査では、弥生時代後期末~古墳時代前期の溝3条のほか、古墳時代前期の布留式から庄内式土器を含む遺物包含層を確認できた。古墳時代前期の遺物・包含層が東から西に向かって厚く堆積していることから、集落の範囲は、第3次調査地点の西寄りに広がっているものと推定できる。

これまでの調査結果から山麓部に分布する古墳時代の遺跡の変遷をたどってみると、近鉄奈良線瓢箪山駅付近から長門川付近を境にその北側と南側で集落の動向が大きく異なる。すなわち、北側に分布する日下遺跡・芝ヶ丘遺跡・神並遺跡・西ノ辻遺跡・植附遺跡・鬼虎川遺跡・鬼塚遺跡では、古墳時代前期~中期前半の遺構・遺物がほとんど確認されていない。一方、中

時期 遺跡名	庄内	車留	TK73	TK216	TK208	TK23	TK47	MT15	MT10	TK43	TK209
目下遺跡				■	■	■	■				
芝ヶ丘遺跡				■	■	■	■				
神並遺跡				■	■	■	■				
西ノ辻遺跡				■	■	■	■				
横附遺跡				■	■	■	■				
鬼虎川遺跡			■	■	■	■	■				
鬼塚遺跡				■	■	■	■				
馬手遺跡		■		■	■	■	■				
貝花遺跡	■	■							■	■	■
馬場川遺跡	■	■							■	■	■
船山遺跡									■	■	■
楽音寺遺跡		■							■	■	■

第2表 生駒山西麓部の古墳時代の集落変遷

期後半に数多くの集落が出現し、後期中頃以降に継続することなく短期間のうちに廃絶している。

一方、南側に位置する貝花遺跡・馬場川遺跡・西の口遺跡・楽音寺遺跡では、古墳時代前期から中期前半の遺構・遺物を確認できる。しかし、北側の地域に分布する前述の諸遺跡で多数の遺構・遺物を検出している中期後半から後期初頭頃の遺構・遺物は未確認である。そして、古墳時代後期中頃以降、再び各遺跡からの検出例が増加する。

このような山麓部の南側地域における集落の動向は、本遺跡の南東方向、八尾市域にある西の山古墳・花崗山古墳・心合寺山古墳などによって構成される古墳時代前期～中期前半の楽音寺古墳群や後期中頃から築造のはじまる高安古墳群などの墓域の動向とも一致している。

このような生駒山西麓部のうちの小地域での集落や墓域の立地の変遷は、この小地域における自然的側面と政治的側面を反映しているものと推定できる。

報告No.	層位		種類	法量 (cm)	色調	調整手法						
	出土遺構	器種				口縁部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面			
報告No. 01 図 5	溝01	土師器 壺A	口徑(19.4) 器高	10YR 5/4 にぶい黄 褐色	口縁部外面	ヨコナデ 横方向のヘ ラミガキ 縦線状文4 行 竹管文を加えた凸線 1本の円形押文5方向	口縁部内面	ヨコナデ 横方向のハケメ後横 方向のヘラミガキ 縦線状文4帯	体部内面		底部内面	
					体部外面	1帯の貼付突帯上に上下 2線の刺突文	体部内面		底部外面			
報告No. 02 図 5	溝03	弥生土器 甕	口徑 器高	7.5YR 4/3紫色	口縁部外面		口縁部内面		体部内面		底部内面	ナデ
					体部外面		体部内面		底部外面	平行タタキメ ナデ		
報告No. 03 図 5	第4層	土師器 壺A	口徑(14.0) 器高	5YR 5/6 明赤褐色	口縁部外面	ヨコナデ 縦線状文3 帯 竹管文を加えた円 形押文 刺突帯	口縁部内面	ヨコナデ 縦線状文2帯	体部内面		底部内面	
					体部外面		体部内面		底部外面			
報告No. 04 図 5	第4層	土師器 甕A	口徑(22.6) 器高	5YR 6/6 橙色	口縁部外面	ヨコナデ後縦方向のヘ ラミガキ	口縁部内面	横方向のハケメ後ヨ コナデ	体部内面		底部内面	
					体部外面		体部内面		底部外面			
報告No. 05 図 5	第4層	土師器 壺A	口徑(21.8) 器高	7.5YR 5/4にぶい 褐色	口縁部外面	ヨコナデ ハケメ	口縁部内面	横方向のハケメ後ヨ コナデ	体部内面		底部内面	
					体部外面		体部内面		底部外面			
報告No. 06 図 5	第4層	土師器 壺B	口徑(18.0) 器高	7.5YR 6/4にぶい 橙色	口縁部外面	縦方向のハケメ後ヨコ ナデ	口縁部内面	横方向のハケメ後ヨ コナデ	体部内面		底部内面	
					体部外面		体部内面		底部外面			
報告No. 07 図 5	第4層	土師器 壺B	口徑(15.8) 器高	7.5YR 7/3にぶい 橙色	口縁部外面	ヨコナデ 横方向のヘラミガキ	口縁部内面	ヨコナデ	体部内面		底部内面	
					体部外面		体部内面		底部外面			
報告No. 08 図 5	第4層	土師器 壺C	口徑(12.6) 器高	2.5YR 7/3淡赤橙 色	口縁部外面	ヨコナデ ナデ 縦方向のハケメ	口縁部内面	横方向のハケメ後ナ デ	体部内面	横方向のハケメ	底部内面	
					体部外面	右よりの平行タタキ メ後縦方向のハケメ	体部内面		底部外面			
報告No. 09 図 5	第4層	土師器 壺C	口徑(10.2) 器高	7.5YR 6/4にぶい 橙色	口縁部外面	ヨコナデ後縦方向のヘ ラミガキ	口縁部内面	ヨコナデ	体部内面	横方向のヘラミガキ	底部内面	
					体部外面	横方向のヘラミガキ	体部内面	横方向のヘラミガキ	底部外面			

第3表 出土遺物観察表1/4

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構	器種			口縁部外面	口縁部内面
報告No. 10 図 5	第4層	土師器 壺D	口径11.8 器高7.7	7.5YR 6/4にぶい 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 横方向のヘラミガキ 体部外面 横方向のヘラミガキ 底部外面 横方向のヘラミガキ	口縁部内面 ヨコナデ 横方向のヘラミガキ 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ナデ
報告No. 11 図 5	第4層	土師器 壺D	口径(10.2) 器高	7.5YR 6/4にぶい 橙色	口縁部外面 縦方向のハケム後ヨコ ナデ 体部外面 横方向のヘラケズリ 底部外面 横方向のヘラケズリ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面 横方向のヘラケズリ
報告No. 12 図 5	第4層	土師器 壺D	口径(10.0) 器高	7.5YR 6/4にぶい 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 横方向のハケム 底部外面 縦方向のハケム	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面 横方向のヘラケズリ 後ナデ
報告No. 13 図 5	第4層	土師器 鉢A	口径(14.6) 器高5.5	5YR6/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 横方向のヘラミガキ 底部外面 横方向のヘラミガキ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 横方向のヘラミガキ
報告No. 14 図 5	第4層	土師器 器台A	口径 器高	7.5YR 7/4にぶい 橙色	口縁部外面 体部外面 底部外面 ヨコナデ縦方向のヘラ ミガキ	口縁部内面 体部内面 底部内面 ハケム後ナデ
報告No. 15 図 6	第4層	土師器 甕A	口径(15.6) 器高	7.5YR 4/4褐色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 右上がりのタタキメ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面
報告No. 16 図 6	第4層	土師器 甕A	口径(15.4) 器高	10YR7/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 右上がりの平行タタキ メ後左上がりのハケム 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面
報告No. 17 図 6	第4層	土師器 甕B	口径(13.0) 器高	7.5YR 6/3にぶい 褐色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面
報告No. 18 図 6	第4層	土師器 甕B	口径(11.6) 器高	2.5YR 4/6赤褐色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面

第3表 出土遺物観察表2/4

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土段階	器種				
報告No.19 図6	第4層	土師器 甕C	口径(14.4) 器高	2.5YR 5/6明赤褐色	口縁部外面 ココナデ 体部外面 縦方向のハケメ後ナデ 底部外面	口縁部内面 ココナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面
報告No.20 図6	第4層	土師器 甕C	口径(14.2) 器高	2.5YR 6/6橙色	口縁部外面 ココナデ 体部外面 縦方向のハケメ後ナデ 底部外面	口縁部内面 ココナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面
報告No.21 図6	第4層	土師器 甕D	口径(11.0) 器高	5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ココナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ココナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No.22 図6	第4層	土師器 甕D	口径 器高	7.5YR 8/4浅黄褐色	口縁部外面 体部外面 底部外面 縦方向のハケメ	口縁部内面 体部内面 底部内面 ナデ
報告No.23 図6	第4層	土師器 高坏A	口径(18.2) 器高	7.5YR 7/6橙色	口縁部外面 ココナデ ナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 ココナデ ナデ 体部内面 底部内面
報告No.24 図6	第4層	土師器 高坏B	口径(16.4) 器高	2.5YR 6/6橙色	口縁部外面 ココナデ後横方向のヘ ラミガキ 体部外面 底部外面	口縁部内面 ココナデ後横方向の ヘラミガキ 体部内面 底部内面
報告No.25 図6	第4層	土師器 高坏B	口径16.2 器高	7.5YR 5/4にぶい 褐色	口縁部外面 ココナデ後横方向のヘ ラミガキ 体部外面 底部外面	口縁部内面 ココナデ後横方向の ヘラミガキ 体部内面 底部内面
報告No.26 図6	第4層	土師器 高坏	口径 器高	2.5YR 5/6明赤褐色	口縁部外面 体部外面 ナデ 底部外面 縦方向のハケメ後ナデ	口縁部内面 体部内面 ナデ 底部内面 横方向のヘラケズリ ココナデ
報告No.27 図6	第4層	土師器 高坏	口径(11.8) 器高	5YR4/3 にぶい赤 褐色	口縁部外面 体部外面 底部外面 縦方向のハケメ後横方向 のヘラミガキ ココナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面 シボリメ ココナデ

第3表 出土遺物観察表3/4

報告No. 図	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
	報告No. 28 図 6	第4層	土師器 高坏	口径12.0 器高	2.5 YR 5/6明赤褐色	口縁部外面  体部外面 底部外面 縦方向のハケメ後ナデ
報告No. 29 図 6	第4層	縄文土器 深鉢	口径 器高	10 YR 6/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ナデ  体部外面 底部外面	口縁部内面 ナデ  体部内面 底部内面
報告No. 30 図 6		土師器 坏	口径(13.4) 器高3.6	5 YR 7/4 にぶい橙 色	口縁部外面 ココナデ  体部外面 ナデ 底部外面 ナデ	口縁部内面 ココナデ  体部内面 ナデ後放射線状の暗 文 底部内面 ナデ
報告No. 31 図 6		須恵器 坏	口径(9.2) 器高2.1	N7/0灰白 色	口縁部外面 ココナデ  体部外面 ココナデ 底部外面 回転ヘラケズリ ヘラ切り	口縁部内面 ココナデ  体部内面 ココナデ 底部内面 ナデ
報告No. 32 図 6		埴輪	口径 器高	7.5 YR 8/3浅黄橙 色	口縁部外面  体部外面 底部外面 縦方向のハケメ	口縁部内面  体部内面 底部内面 ナデ

第3表 出土遺物観察表4/4



# 圖 版



1 調査前風景(西より)



2 調査風景

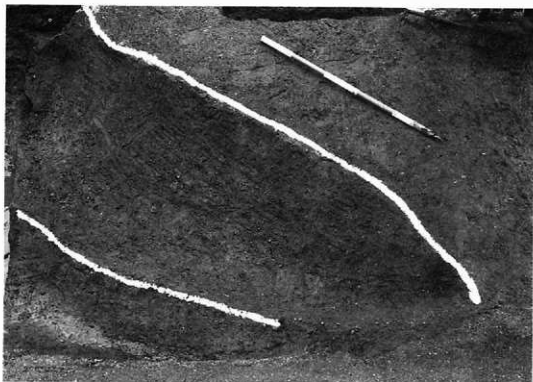


1 第4層土師器出土状況(南より)



2 第4層土師器出土状況(西より)

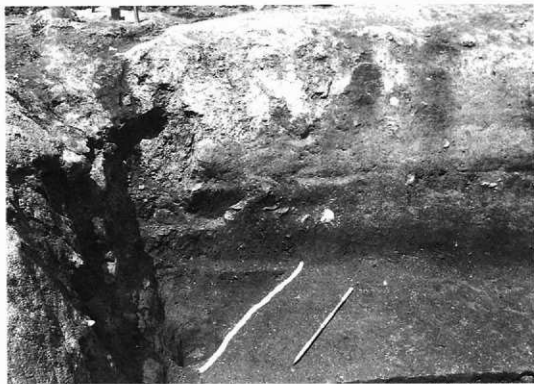
図版  
3  
遺構



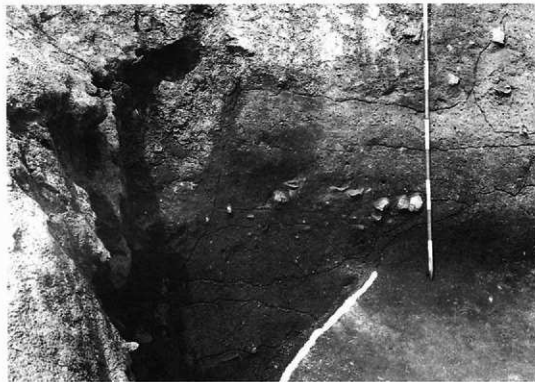
1 溝2完掘状況(北より)



2 溝1・2断面(東壁)



1 溝3完掘状況(南より)



2 溝3断面(北壁)

圖  
版  
5  
遺  
物



01



03



02



04



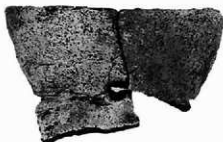
06



05



07



08



09



10



11



13



12



14

図版 7  
遺物



17



15



16



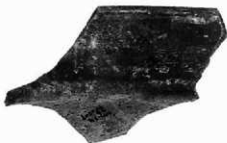
18



19



21



20



22







23



26



24



25



27



29



28

## 報告書抄録

書名 貝花遺跡第3次発掘調査報告書  
ふりがな かいばないせきだい3じはっくつちようさほうこくしょ  
副書名  
巻次  
シリーズ名  
編著者名 中西克宏  
編集機関 財団法人東大阪市文化財協会  
郵便番号 577-0843  
所在地 東大阪市荒川3丁目28-21  
電話番号 06-6736-0346  
発行機関 財団法人東大阪市文化財協会  
発行年月日 1999  
遺跡名 貝花遺跡  
遺跡名ふりがな かいばないせき  
遺跡所在地 東大阪市横小路町517  
所在地ふりがな ひがしおおさかしよこしょうじちよう  
市町村コード 27227  
調査期間 1994.4.25-1994.5.19  
調査面積 59m<sup>2</sup>  
調査原因 下水管理設・道路敷設  
主な時代 古墳時代  
種別  
主な遺物 縄文土器 弥生土器 土師器 埴輪 須恵器  
特記事項

---

貝花遺跡第3次発掘調査報告書

1999年 7月

発行 財団法人東大阪市文化財協会

〒577-0843 東大阪市荒川3丁目28-21

電話 06-6736-0346

印刷 株式会社ミラテック